

平成 27 年度第 1 回豊岡市立図書館協議会 会議録（要旨）

開催日時 平成 27 年 7 月 8 日（水）午前 9 時 30 分～午前 11 時 30 分
開催場所 豊岡市役所 3 - 1 会議室
出席委員 9 人
傍聴人 なし

1 開会

2 委嘱書の伝達

3 事務局挨拶

4 自己紹介

5 図書館協議会について

事務局から本協議会の位置づけについて概要を説明。

6 正副会長の選出

会長：堂垣一博委員 副会長：芝地裕子委員

7 報告

（1）平成 26 年度事業概要について、（2）平成 27 年度事業進捗状況について説明。

委員 講師指導者派遣事業において、実施が豊岡と城崎のみとなっているのはなぜか。

事務局 職員、ボランティアのスケジュールの都合上、2 館に集中したものである。

会長 入館者数・貸出点数が減ったことについてどのように分析しているか。

事務局 詳しい分析はまだできていないが、平成 22 年度に図書館ネットワークが完了してからは落ち着いている状況である。また、若年層の利用登録者の減少も要因と考えており、彼らをどう引き戻すのかが必要と考えている。

会長 今はインターネットの時代であり、図書館にはデメリットをメリットにする努力をお願いしたい。また、学校図書室の取り組みについて本日現場の先生にも出席いただいているので教えてほしい。

委員 中学校でも朝読に取り組んでいるが、開始前より読書する子は増えているように思う。また、子どもたちは落ち着いて朝読に取り組んでいる。そのような状況の中で、学校図書室の整備も進んでいる。ただ、放課後の図書館の活用には工夫が必要であると感じている。

委員 小学校では、図書室ではなく図書コーナーとしている所がある。図書室の運営や読み聞かせは図書ボランティアをお願いしている。図書館の本も団体貸出で利用している。子どもの読む数は増えているが、これからは量から質になると思う。たくさん読むことよりも、自分にとって大切な 1 冊に出会えるような取り組みが必要かと思う。

8 協議

（1）図書館のあり方について、（2）その他

事務局 図書館のあり方検討の経過について説明。

会長 現在の状況はどうか。

事務局 図書に詳しい方、専門家にアドバイスをいただいているが、情報量が多くまとめきれ
ていない状況である。

会長 本協議会は年2回となっているが、早めに2回目を開催するとか、回数を増やすとか
は考えていないか。

事務局 年2回の開催予定で予算計上はしているが、3回目を開催することの他に、フリーで
理想の図書館像についてワークショップにご参加いただき意見をいただくということ
も考えている。

委員 本が囲む環境を大事にしてもらいたい。新しい提案をすることで、「こんな図書館があ
るのか」と市民が驚くものが欲しい。

会長 時代の経過とともに図書館も変わっていくべきだと思う。従来だと図書館は飲食禁止
だが、スペースを確保することで適合していくことも考えてもよいと思う。

委員 個人的に本を読む時間が取れなくなっている。また、若い人たちは、最新情報に飛び
つきたくなるというか、遅れたくないという意識があるようだ。中学生に本を読みな
さいと言うよりは、小学生までに本に触れる楽しみを体験させることの対策が必要と
思う。そのことでいつか本を読みたい時期が来るのではと思う。ネットショッピング
であなたにお勧めの商品が表示されるように、図書館でも「こんな本がありますよ」
などの提案型の情報発信が出来たら良いと思う。

会長 情報発信の際には誰が何を借りたかなどの個人情報の流出があってはならない。

事務局 5月にシステムを更新したが、今まで以上に個人情報へのセキュリティ機能が強化さ
れたので、情報流出のリスクはかなり低くなっていることを補足しておく。

会長 今後、飛躍的に図書館利用が増えることは難しいと思う。ブックスタートから「みん
なの図書館」として色々と積み上げてきているが、10年先を見越すと、やはり小中学
校時代の読書体験が重要だと考える。まず、家読を大切にしたい。

委員 小学校では、「チャレンジ50」に取り組んでいるが、量から質への評価が大切になると
感じている。「キーワードは子ども」との発言があったが、子どもと本をつなぐもの
として、実感・体感と本を結びつけることが大切だと思う。足を運び探求することは、
本だけでなく、人や地域とタイアップすることでも重ねることができる。

会長 そういった話を聞くと、地域コミュニティの中で本を活用できないか。

委員 城崎アートセンターにはリヤカーに本を積んで、町中を歩き、旅行者に気軽に本と手
に取ってもらおう試みをしている。図書館も仕掛けをどうするか考えるべきである。

委員 地域のコミュニティは手探りで色々なことに取り組んでいる。図書館でも新しいコミ
ュニティモデル地区のように試験的に何かやってみるのも方法である。ボランティア
に協力をいただきながら、地道な積み上げが必要である。

委員 今までは本は静かなところで読むべきものという考えであったが、その視点を変える
必要があると感じた。豊岡子育てセンターの行事に読み聞かせに行った時のことだが、
他の子どもがおもちゃで遊んだりして賑やかな場所でも、しっかり聞いてくれる子ど
もがいることがわかった。また、赤ちゃん向け絵本だけでなく、保護者向けの育児書

- などを持っていき、そこで貸出をしているのを見て、これからは子どもが本を好きになってくれる場所がどんどん増えるように柔軟に考えていかないといけないと感じた。
- 事務局 飲食の件も含めてだが、人がいない、お金が無いからとできないという考えは捨ててスタートすべきだと考えている。事業をするために、どうすれば良いかをこれからは一緒に考えていただけたらと思う。その中で、今後はワークショップ的なものを開催して意見を聴いていきたい。
- 委 員 過去の大学図書館は静かに勉強しているイメージだが、今では議論する場所が設けられている。これからは、場作りという新たな視点が必要だと思う。
- 事務局 同様に、コミュニティの場とならなければならないと思う。
- 会 長 子ども連れでの来館について、ご意見を聞かせてほしい。
- 委 員 入館する前に「図書館では静かにしなさい」と注意しても、館内で静かにするのは難しい時がある。我が家では家の中で子どもの目に届く所に本を置いて、自然と読めるように仕掛けている。
- 事務局 子どもが少しくらい大きな声を出しても仕方が無い部分がある。線引きが難しいところではあるが、現場職員の判断で柔軟に対応している。
- 委 員 鳥取県立図書館では、高齢者施設の職員が施設利用者を図書館まで送迎している。
- 事務局 豊岡市でも同様の施設や団体貸出を利用している施設などがある。図書館としても関係施設にもっとサービスの呼びかけをしていく必要があると考えている。
- 委 員 私の地域では、新しいコミュニティで病院で処方された薬を本人に代わって受取りに行くというサービスを考えている。同じように、地域の人が図書館に行く足のない人を送迎したり、貸出返却の代行をしたりすることができないか。また、分館は子育てセンターと併設しているというメリットがあるので、子育てセンターに来たついでに図書館にも入ってもらえるよう、工夫が必要である。
- 委 員 豊岡市街地の方で、日高分館を利用している理由を尋ねたが、まず本館は駐車場が少ないため、広い駐車場のある日高分館を利用しているとのことであった。本館に駐車場が多く確保できれば、来館者増につながると思う。せめて、行事の時だけでも小学校以外の臨時駐車場が用意できればと思う。
- 事務局 駐車場の件では大変ご迷惑をおかけしている。我々も大きな問題と認識している。
- 会 長 豊岡市教育行動計画に基づく読書推進活動計画の見直しについて、どのような状況か。
- 事務局 内容の再チェックを行っていくが、基本的な所は変わらないと考えている。
- 会 長 どの部署が担当し推進するのが明記されていないのが気になる。今後、検討してほしい。
- 事務局 直近の開催事業についてチラシ等により説明。

9 閉会

芝地副会長閉会あいさつ